

授業科目名： 学校ボランティアⅠ (中等)	教員免許取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 斎藤 やす子・天利 公一 担当形態：オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	天利公一：町田市教育委員会 教育センター 適応指導教室指導員 斎藤やす子：高校国語科非常勤講師 日本教育カウンセラー協会 上級カウンセラー		
科 目	大学が独自に設定する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	なし		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>学校ボランティアⅠでの「体験」を「振り返り、課題を深く考える」ことを通して自己の省察をし、教育現場の理解を深め自己の課題に気づくことができる。</p> <p>○学校ボランティアの体験を通して、教育現場についての理解を深めることができる。</p> <p>○体験を基に自身の適性について考え、今後の学修に生かすことができる。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>学校体験活動をすることが目的で、教育実習の前段階の活動として位置づけている。学校現場での観察・参加を通して教育者としての愛情と使命感を深め、教育実習に向けて自己の課題をつかむ。</p> <p>大学の担当教員の指導を受ける一方、教育現場での実体験を記録に残したり、いろいろな行事に参加したり、自立した社会人としての教養を身に付けると共に、教員としての基礎的な能力と態度を培う。年度末にSCで1年間の成果をまとめる。</p>			

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：学校ボランティアの意義、目的

第3回：学校ボランティアについての諸手続きについて

第4回：学校ボランティアの心得①（服項について装、身なり、言葉遣い、やむを得ず欠席する場合、挨拶の仕方等）

第5回：学校ボランティアの心得②（禁止事項、学校の1日のリズム、時間の厳守等）

第6回：体験した事や様々な出来事及び自分の振り返りを記録する。

第7回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導）

第8回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導）

第9回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導）

第10回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導）

第11回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導）

第12回：これまでの教育実践を通して、心に残った出来事を書く。

第13回：これまでの教育実践を通して、教職に対する自分の思いを書く。

第14回：学校ボランティアIの振り返り（交流と意見の共有）

第15回：学校ボランティアのまとめをする。発表

定期試験

教科書

・「教員を目指す人のために」（教職ガイダンス資料）

参考文献

・教育の方法 佐藤学著 左右社 2018

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。

※第1回から第5回までは
オンデマンドにより学修する。